

国 語

科目名	単位数	学 年	学 科
言語文化	2単位	1年	農・普科

教科書	新編 言語文化 (数研出版)	副教材	常用漢字ダブルクリア (尚文出版)
-----	----------------	-----	-------------------

科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>
-------	---

☆ 年間指導計画と学習のポイント ☆

	学 習 項 目	単元の評価の観点	
		①知識・技能	②思考・判断・表現
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の「ことば」</li> <li>古文の世界を楽しむ</li> <li>日本語の中に生きる漢文</li> <li>「ことば」を吟味する</li> <li>現代にも生きる教え</li> <li>詩歌を味わう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> <li>古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。</li> <li>我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。</li> <li>「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。</li> <li>「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録する文学</li> <li>昔と変わらない人の心</li> <li>故事と成語</li> <li>受け継がれる古典</li> <li>和歌が作り出す世界</li> <li>語感を磨く</li> <li>漢詩を味わう</li> </ul>		
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ことば」の力</li> <li>戦乱下の人間像</li> <li>論語のことば</li> <li>文体の魅力</li> <li>先人を思う旅</li> </ul>		

1 普段使っている言葉の特徴や使い方に加え、その言葉の由来についても興味を持とう。  
2 近現代の文学、古典文学、漢文学のそれぞれを読み、自分の考えを広げたり深めたりしよう。  
3 言葉や文学がもつ価値への認識を深め、読書に親しもう。

番号	評価の観点	評価規準
①	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
②	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
③	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
定期考査	1学期中間・期末 2学期中間・期末 学年末 (計5回)	
評価方法	以下を総合的に評価する。 ①知識・技能 (定期考査、ファイル提出) ②思考・判断・表現 (定期考査、レポート・課題提出、意見発表) ③主体的に学習に取り組む態度 (授業中の発言、レポートや意見発表の自己評価・相互評価)	